令和７年度　福井特別支援学校　学校関係者評価書

（問）・学校評価書の成果と課題への質問やご意見。
・成果と課題を踏まえた今後の改善策・向上策への質問やご意見。
・意見交換、全体を通したご助言。

（意見を聞いた方）
平谷こども発達クリニック円山事業所はぐぐみ　所長　髙野　幸嗣　氏
福井市湊公民館館長　千秋　英幸　氏
福井県立福井特別支援学校ＰＴＡ会長、福井県立福井特別支援学校後援会会長

（意見欄）

〇生徒支援
・児童生徒ができる範囲で自身の健康状態をタブレットに入力していることについてご質問を受けた。
熱や咳等の諸症状について入力してもらい、体調の変化について知る手掛かりにしている。心の変化については、多感な時期でもあるし、自分の心の変化に気付くことが難しかったり、知られたくなかったりする児童生徒もいるので、タブレット入力内容では全て網羅することはできない。入力内容から、児童生徒に投げかけるツールとして利用している。

〇生活・進路支援
・湊地区との交流活動について感想をいただいた。
今年度初めて、全校児童生徒・その保護者を対象に「みなと独楽吟」に応募してもらった。入賞した生徒の作品に感動した。自分が楽しみに思えることを持っていることが卒業後の生活においても大事なことである。それを在学中に育てていることがとても大切であり、進路指導にもつながる。

〇学習支援、学校管理運営
・授業担当者会や教科会の定期開催についてご意見をいただいた。
各教科等を合わせた指導はもともと、学部や各教科とのつながりや系統性を持たせにくいものであり、教師が思いつきで活動ありきの指導をしているのではつながっていかない。学びの連続性を重視した教育課程の編成や教科指導の在り方を研究会や教科会、授業担当者会等で検討していることはとても大事なことである。

〇全体（総括）
・小学部段階から保護者が子どもの将来の生活について考えていくことができるような情報提供の在り方について、学校関係者からご意見をいただいた。
　小学部段階では「まだ先、分からない」と捉えがちであるが、保護者の関心が高い放課後の過ごし方が、将来の生活の何にどのようにつながるのか、保護者と一緒に考えていく働きかけが必要ではないか。在学時は、担任や進路指導担当教員、PTAが親子を支えているが、卒業後は頼れる相手が限定されるため、在学中から保護者がしっかり考えていく必要がある。

（学校関係者評価を踏まえた今後について）
　保護者や関係機関の方々とともに、また教職員の協働を追究しながら、自分らしく輝ける子どもの育成を目指していきたい。来年度は、校内研究や授業担当者会、教科会などをより充実させ、単元計画の立案や授業づくりの精度を向上させたい。学校安全においては、年間通して実施している避難訓練の課題改善に取り組み、教職員一人一人が自ら判断し行動できるようにしていく。さらに、令和７年度までの取組（特にかかわる・いきるに関する取組）をキャリア教育の視点で整理・再編し、『自分らしく生きる』を重点目標として設定し全学部で取り組んでいく。